



園だより

平成 30 年 7 月 2 日発行

合志こども園 園長 松岡 貴子

園看板を設置しました。

幼保連携認定こども園として4年目を迎えました。先日待望の園看板を設置致しました。学園アドバイザーでもあるウチダデザイン様と共に計画を進め、出来上がった看板は洗練されたものとなりました。透明板に園名が際立っています。

また、キッズタウン紹介のポールも園庭脇に設置しております。ぜひ、立ち止まってご覧ください。

(東側看板は、夜ライトアップされています)



今年の梅雨は晴れ間が多いように感じます。雨が少ない梅雨は、水遊びが大好きな子ども達にとっては好都合です。各学年に応じた水遊びが展開されており、それぞれ楽しむ姿が見られています。涙が出ている0歳児さんも水の心地よさを味わうと笑顔も見られています。8月末まで、自分なりの目標をもってチャレンジし達成感を味わって欲しいと思います。【努力するってすてきだね】

春に準備して頂いた各クラスのプランターには、色々な野菜が育っています。先日1歳児さんのきゅうりが20センチを超えるほど育ちました。初収穫して給食時に塩もみきゅうりを食べる子ども達の嬉しそうな表情は、「自分たちで世話をした」自信さえ感じるほどでした。離乳食から幼児食へ移行した子ども達は色々な食材を口にしています。初めてのものには抵抗のある子どももいますが、育てることでよりおいしく感じることもできていたようです。これから育っていくピーマンやトマトの収穫をたのしみしています。各クラス収穫に合わせて、クッキングにも挑戦していく予定です。【みんなでチャレンジ】

6月30日保護者の協力のもと「迎え訓練」を実施することが出来ました。仕事の都合をつけて参加して頂きありがとうございます。様々な状況を想定した毎月の訓練に今年度、初めて計画しました。計画を進めていく中で、「安全に命を受け渡す」ことの難しさを感じました。この時はどうすればいいのかを職員で検討し実施したのですが、終わった後にも「車をどうするか?」「不安になっている子どもたちへの配慮は?」「連絡が付かなかった時の対応は?」と今後の課題を見つけることが出来ました。訓練は、「非常時に少しでも慌てず行動が出来る」ことを目標とし子どもと共に「自分の命は自分で守る」方法を考えていきます。今回家庭と園とが共に経験することで、それぞれの課題が明確になったのではないのでしょうか。ご家庭でも、「もしもの時どうする」を話し合ってみられてはいかがでしょうか?大切な命しっかり守っていきましょう。【命を守ることは一番大事だね】



ほけんだより 手足口病が流行っています

他園の罹患情報がいってきました。本園では感染の報告はありませんが、これから梅雨明けや夏本番に向けて流行する病気もあります。体調を崩すと罹りやすくなりますので、「早寝・早起き」を更に取り組んでいきましょう。また、エアコン等も上手に使う「寝やすい環境」を整えることも考えてみてください。これから流行する病気を紹介します。参考にされて早めの対応・受診に取り組んでください。自己判断してしまうことで、症状を長引かせてしまうこともあります。

梅雨明けも間近です。暑い夏！元気に楽しく乗り切っていきましょう！！

★気をつける夏の感染症

感染症名	原因	症状	対応
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群などに飛まつ感染することで発症	高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ぼうや潰瘍ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクがのめなくなるほどに。	のどの痛みは、熱が下がってからも続くことがある。熱やのどの痛みがあるうちは、安静に過ごすように。
咽頭結膜炎： プール熱	アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を解して感染することがあるので「プール熱」と呼ばれる	39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状がでるのが特徴	感染したら、症状がなくなってから2日経過するまでは登園停止。自宅で安静に過ごすように
流行性角膜炎	目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけでなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近では季節に関係なく発症する傾向がある	まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うこともある	完治まで2～3週間かかり、発病から2週間は登園停止。感染予防のため、こまめに手を洗い、タオルの共有は避ける
手足口病	コクサッキーウイルスやエンテロウによる飛沫感染	手のひらや足の裏、口の中に小さな水泡や赤い発疹ができて熱が出ることも	3～5日で治る。元気があれば登園できるが、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛や嘔吐を伴う発熱が3日以上続くときには直ぐ受診を。
とびひ	虫刺されや湿しんをかきむしったあとに黄色ブドウ球菌などが感染して起こる。症状がどんどん広がっていくことからこの名称で呼ばれる。皮膚が弱いとかかりやすい	皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけたような状態になる。発熱することも	主な治療法は抗生物質の使用だが、衣服を清潔に保つこともたいせつ。患部をガーゼなどで覆って登園するように。また、患部がじくじくしているときは症状が悪化しやすいので、プールは避ける。シャワーを浴びる程度は可。
水いぼ	ポックスウイルス群が原因。タオルやビート板の共有、体の接触などで感染する	粒大のいぼが胸や腹、わきの下などにできて広がる。	完治まで半年から1年半程度かかる。自覚症状がなければ治療は不要。肌のバリア機能が低下しているときや、かゆくてかきこわしてしまうようなら、医師と相談の上、いぼを取ったり、薬による治療を行なうこともある。

★7・8月行事について

一学期もあと20日ばかりとなり、1号認定児の子ども達は夏休みに入っていきます。夏季休暇中は以上児合同保育を行なっていく予定です。他園との合同保育等は、人数調査後にお知らせしていきます。調査のご協力よろしくお願い致します。また、重要事項説明時にお知らせしておりました、**盛夏日(8/15)は休業日**とさせていただきます。